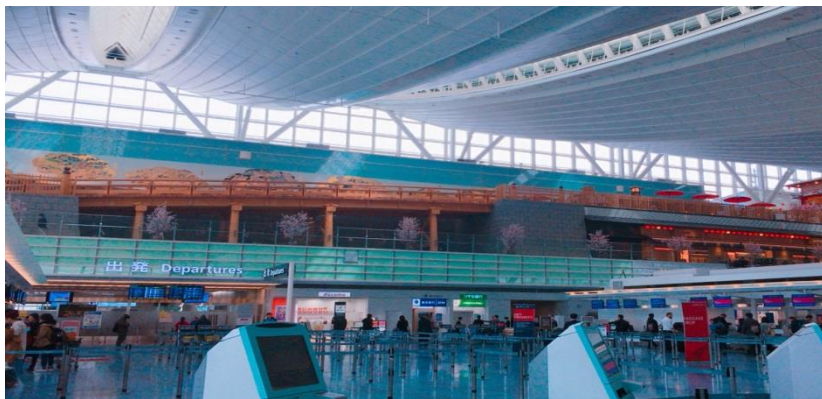


4th March, 2017

DAY 1



いよいよ研修初日を迎えた。オーストラリアドルを手にし、期待と不安を抱えながら、富山きときと空港で 9 時から出発式が執り行われた。生徒代表の安藤さんの気合いのこもった挨拶後、記念撮影をし、多くの家族や先生方に見送られ、飛行機に搭乗し、羽田空港へ旅立った。

羽田国際空港の国際線までバスで移動し、自由時間になると、しばらく食べ



られなくなるであろう和食を堪能したり、展望デッキで離陸する飛行機を見て、オーストラリアへの思いを募らせたり、日本伝統文化の土産物を見たり、それぞれが日本最後の時間を大いに満喫した。

そこからは、シンガポール線の飛行機に乗って、トランジット先のシンガポールへ向かった。すると、飛行機内の雰囲気、日本とは異なるものとなり、機内

サービス利用時などで、急に英語を使わなければならなくなった。こうして気分も高まる中、オーストラリアの温暖な気候や、ホストファミリーの方々との出会いを楽しみにしつつ、ブリスベン空港行きの飛行機に乗り継いだ。



5th March, 2017

DAY 2

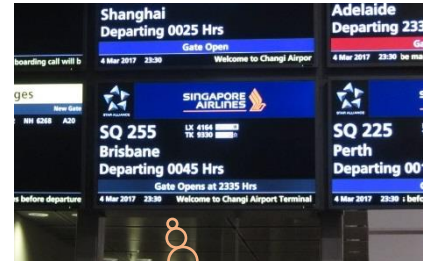
昨日 16 時 40 分に羽田空港を出発し、現地時間 23 時 20 分にシンガポールへ到着。ここでブリスベン行きの飛行機に乗り換えた。

そしてシンガポールを 0 時 45 分に出発し、現地時間 10 時 45 分にブリスベンに到着した。日本から約 15 時間のフライトを終え飛行機を降りた私たちを迎えたのは、強烈な日差しと蒸し暑さであった。オーストラリアが南半球にあることを改めて実感するとともに、これからの 1 週間への期待が高まった。



空港到着も束の間、現地ガイドのひろこさんの案内でホストファミリーに会うため一同クリーブランド地区高校へむかった。長旅の疲れはあるが、いよいよホストファミリーに会う期待と緊張で胸がいっぱいになっていた。

そして、クリーブランド地区高校に到着した。ついにホストファミリーとの対面。緊張した面持ちの私たちを、みんなは笑顔で迎えてくれた。いよいよホームステイが始まる。不安もあるが、楽しみの方が多い。ワクワクの 1 週間が幕を開けた。



これに
乗り換え！



「パスポート紛失の
準備は OK?」(M.F)

Today はホントに
「トゥデイ」(Y.M)

1日最大9食!?
(M.A)

地元サーファーから頂いた
「Crazy Boy」の称号(K.S)

あれ、シンガポール
航空の CA みたいな
人がある！(S.M)

食事の多くが
NO 野菜
NO 食物繊維
(E.Y)

移動中随時バス内で
繰り広げられる恋愛
トークに冷や汗(S.O)

「ここで働きたい！」
Lone Pine にて。(H.T)



6th March, 2017

DAY 3

昨日初めて出会ったホストファミリーに送られて、今日は州立クリーブランド地区高校へ来た。

まず、私たちはホールへ移動して、挨拶をした。人が多くて、後で質問してみると2000人以上の生徒がこの学校に在籍しているらしい。その後、学校案内をしてもらった。広大な敷地に羊や馬などさまざまな動物が飼われていて、とても驚いた。また、ダンスルームや屋外バスケットコートなど中部高校には無い設備もありおもしろかった。



午前10時に初めてバディと対面した。一緒にモーニングティーの時間を過ごした。はじめはみんな気恥ずかしそうだったが、日本から持ってきたお土産をきっかけに会話をはじめ、次の授業に向かう頃には楽しそうに会話をしていた。このモーニングティーの時間は日本でも取り入れたら良いと思う。

授業ではパソコンをつかい、各々自分の課題に取り組んでいた。自由な雰囲気、日本との違いをここでも見つけることができた。



いよいよ研究発表。二つのグループに分かれて発表した。時間がなく全部話すことができなかったが、反応がよく、質問も飛び交い、大きな興味を示してくれた。面白い研究発表になったと思う。

その後のランチ。まるごと1個のりんごやバナナで、面食らった。食べたことのないような不思議な味のものも多かったが、研究発表で緊張していた頭と体をリラックスさせてくれた。

午後も授業を約1時間受けた後、ホストファミリーが迎えにきてくれた。バディとさよならの挨拶をして学校は終わった。

一日いろいろあってとても疲れたけれど学ぶものがたくさんあった。明日も頑張ろう！



7th March, 2017

DAY 4

いつもより早めにクリーブランド地区高校へ集合し、モートンベイリサーチセンターのある離島へ出発した。バスごと船に乗り、マングローブ林や海水の色の違いを見ながら1時間かけて島へ渡った。

モートンベイリサーチセンターでレクチャーを受け、海岸で生態調査を行った。高い波が襲ってくる状況の中、1m四方の柵を作りその中でフジツボの数を数えたり、水温や気温を測った。生物学者によると岩場の高いところと低いところによって、海水の塩分濃度が違い、それによって場所ごとに生物の種類が変わり、生物多様性が保たれるそうだ。

マングローブ林には透明度の高いきれいな川が流れていた。マングローブ林が水をろ過することでオーストラリアの自然豊かな海が形成されていることを知った。



待ちに待ったランチタイムはセルフハンバーガーで、好みの具材を挟むことができてとても美味しかった。

午後からは海から30mごとに植生調査をした。海に近い場所では先駆植物しかいなかったが、離れるにつれて様々な植生が見られた。移動時間が長くとても疲れたが、充実した1日となった。



8th March, 2017

DAY 5

今日はホストファミリーの人にクリーブランド高校まで送ってもらい、そこからバスでクイーンズランド大学へ向かった。大学についてすぐ、キャンパスの広さに驚いた。その広大な敷地内では、たくさんの鳥が飛んでいたり、週に1度マーケットが開催されていたり、ピザ屋があったり、日本の大学ではあまり見られないような光景を目にすることができた。お昼前に受



けた講義では、What, When, Where, Why, Who, How の疑問詞を使うクイズを用いながら、オーストラリア固有の動物について教わった。日本での事前研修が行われた時よりも16人の団結力が高まり、それぞれ積極性が身についたように思われた。講義後は、配られたクーポン券でお昼ご飯を食べた。英語での注文がうまくいかず、自分のほしかった量以上のものが出てきてしまう生徒もいた。

午後からは Lone Pine へ向かった。アメリカ出身だという飼育員の方からのレクチャーを受けた。コアラの雄雌の見分け方など、今まで聞いたことのないことを教わった。カンガルーの餌付けでは皆少し怖がりながらも、楽しそうにカンガルーと触れ合っていた。そして、コアラを抱いて写真撮影を行った。初めて触れるコアラは思っていたよりも重くしっかりとしていた。最後は他の哺乳類、爬虫類などを見学した。どの生き物たちも日本では見られないようなものばかりだった。日本の動物園では経験することのできないような体験をすることができた。5日目で少し疲れが出てきたが、私たちはそのことを忘れるほど1日を楽しむことができた。



9th March, 2017

DAY 6

当初の予定ではナジービーチとだけ聞かされていたのに、急遽新しい予定が知らされ、午前にはバーニャビルという森に行きました。そこで僕たちはまずスコーン作りをしました。レシピが英語で書いてあって、スコーンなんて作ったことがなかったのでとても不安でしたが、みんなで協力しての作業はとても楽しかったです。スコーンの生地が完成するといよいよ焼く作業に移るのですが、スコーン生地を焼いてくれるおじいさんがなかなか焼いてくれないというオーストラリアンジョークがありました。スコーンが焼き上がるまではルーペをもって森探検に行きました。森の中の木にはコアラが登り下りのときにつける爪痕がはっきりとついていて野生のコアラがほんとにいることを実感できました。一見なんの痕もないような木でもルーペでじっくり確認するとイグアナなどの爬虫類の付けた傷痕が確認できました。他にも大きな木が生い茂る森の中には珍しい鳥の鳴き声が聞こえたり、でっかいアリの巣があったりと街中のオーストラリアとは全然違う雰囲気を感じられました。スコーンが焼き上がると森の中でのモーニングティータイムが始まりました。スコーンの他にもチョコブラウニーやティーが用意されており満腹になりました。スコーンには本当に美味しいバターやジャム、そしてハチミツを自分の好きなように組み合わせて食べることができて、すごく楽しかったです。ちなみに僕のオススメはバターとハチミツです。午後からはナジービーチに行き、そこでランチにフィッシュ&チップスを食べたのですが…とてつもない量でした。モーニングティーのせいもあるのか、ほとんどの人は食べることができませんでした。しかし、オーストラリアのものは何から何まで美味しいことは間違いありません。昼食後、いよいよビーチ散歩です。オーストラリアビーチはどこへ行ってもキレイでナジービーチもとても美しかったです。僕らが浜に行くとなにやら浜辺で動く大群が……ソルジャークラブ（カニの一種）がうじゃうじゃいました。浜辺一面にいて人が近づくと逃げるので、まるで地面が動いているかのような光景でした。ソルジャークラブの土への潜り方はたいへんおもしろかったです。体を回転させながらハサミで土をかき分けて上手に潜っていきます。他にもグリーンワームやヤドカリなど様々な水生生物を見ることができました。帰り際にはなんと、



エイも見ることができました。しかしヤビー（ザリガニの一種）は必死になってみんなで探しても見つかることができなくてとても心残りです。森の生物も海の生物もそれぞれ独特の特徴があることを知ることができました。オーストラリアの大自然を満喫できた 1 日でした。

7th March, 2017

DAY 7

第7日目の午前中はクリーブランド高校でバディと一緒に授業に参加させていただいた。やはり、何度訪れても、日本の高校との違いに驚かされる。学校の規模は勿論のこと、授業のスタイルもかなり異なる。教科書は持たず、一人一人がそれぞれのノートパソコンをもち、毎回授業が行われる教室へと移動する。科目も様々で、「英語（国語）」「日本語」「化学」などは私たちにもおなじみだが、「ビジネス」「農業」などと、実に多様な教科がある。生徒に尋ねると、外国語科目は「中国語」「フランス語」そして「日本語」から一つ選択でき、進級すれば選択の自由が広がる、と答えてくれた。授業で使われる英語は、スピードも速く専門的な言葉も多いので、私たちにとってはとてもレベルの高いものだったが、それでも2日目よりは理解できたような気がして、ここ数日間でのわずかな成長をととても嬉しく思った。



授業が終わると、いよいよ午後の成果発表会の準備に取り掛かる。与えられた時間はたった1時間。それでも、これまで数日間のオーストラリアでの経験がいかに素晴らしく、充実していたかを伝えようと懸命に準備を重ねた。前日から原稿を考えていた人が多く、順調に準備を終わらせることができた。バディと楽しくピザの昼食をとり、いよいよ発表の時が来た。大勢の人が見守る中、訪れた場所について順に英語で発表を行った。

誰も皆、3日目よりも自信を持って、堂々と発表ができていた。途中、写真が画面に映らなくなるというトラブルに見舞われながらも、最後までやり遂げることが出来た。私たちも発表をしながら、3日間の野外調査を振り返ることができ、行く先々でオーストラリアの雄大な自然に出会ったことに改めて感動した。ただ、コアラの生息数や森林面積が激減しているという話もあったので、自然を保護し持続可能な環境を目指すという私たちの責任も改めて実感した。



今回知り合ったバディと連絡先を交換した人も多かった。この研修での人の出会いを大切に、今回だけで終わるのではなく、今後も交流が続いていけば良いなと思った。クリーブランド高校の皆さん、本当にありがとう！



11th March, 2017

DAY 8

今日は、オーストラリアでの最後の日だった。9時に高校に集合し、写真を撮ったり、オーストラリアでの思い出を話したりして、ホストファミリーとの別れを惜しんだ。まだまだバスに乗りたくないという気持ちを抑えながら、感動のハグをしてバスに乗り込んだが、思わず涙がこぼれ、ほんの数日間であったホストファミリーとの生活がどれだけ充実し、楽しいものだったかを実感した。「ようやく慣れてきたところだったのに…」、「帰りたくない」という声が多く聞こえた。4日目・5日目・6日目にモートンベイやコアラパークに行くときも、同じようにバスに乗ってホストファミリーと別れていたのも、これが本当に最後の別れだなんて全く信じられなかった。今回も研修をした後に、またここへ戻ってきてホストファミリーが出迎えてくれるのではないかという気がしていたのだ。しかし、バスに乗ってみんなの嗚咽する声を聞いていると、もうホストファミリーに会えないことを実感した。そう思うと、どこか空虚感があった。手を振りながら、ホストファミリーへの感謝とまた会いに来るという決意で胸がいっぱいになった。



その後、ゴールドコーストの海岸で雄大な自然を感じ、街並みを眺めながら、ブリスベンにある博物館に向かった。宇宙の写真やオーストラリアの海洋生物の模型とともに、有袋類の化石が展示されていた。オーストラリアの有袋類といえばカンガルーが有名だが、現在の姿になるまでの進化の過程が説明されていた。有袋類の祖先は体が大きく、約2.5トンあったそうだ。現在の形に近くなったのは250万年から1万年前で、天敵から身を守るためなどの理由から変わっていったことを学んだ。また、今回の研修で出会った生き物の模型も多く展示されており、体で感じたものを今度は知識として得ることができて、よかった。



そして、ブリスベン空港に到着後、チェックインをして、ガイドをしてくださったひろこさんとハイタッチをしてお別れをし、シンガポールへ飛び立った。空港の待合スペースでは、最後のオーストラリア滞在をそれぞれ思い思いに過ごした。また、出国審査や手荷物検査にも慣れ、各自でボーダリング時間を確認するなど、自発的な行動も見られた。今度は、誰の手も借りずにここへ来ると決めた。



12th March, 2017

DAY 9



朝目覚めるとそこはシンガポール上空付近、あっという間に到着した。シンガポールで羽田行きに乗り継ぎ、約7時間の飛行。行きの航空時間と同じ時間だったはずなのに、帰りは時間が経つのが早く感じられた。「もうすぐ日本着いてしまうね」と名残惜しそうに話す仲間たちを見て、この研修が大成功に終わったことを改めて実感した。

そして無事に羽田空港に到着し、富山行きに乗り継ぎ。オーストラリアでの思い出話をしているといつの間にか富山に到着。そこで待っていたのはたくさんの先生方と家族たち。たくさんの人に「おかえり」と温かく迎えられ、無事に帰国したことを喜ばしく、また一方でオーストラリアでの生活を思うと寂しくも感じられた。



そして富山きときと空港にて解団式が行われた。

初めに高戸先生から

「まず、全員が無事に帰国できてよかった。オーストラリアの学校の先生や現地の人に中部の生徒の態度や積極性を褒められた。」と挨拶があった。そして、生徒代表のあいさつとして1年大屋くんが

「この16人だったからこそ、楽しくて充実した研修にすることができた。英語を学ぶだけでなく、国境を越えて人と人とがつながりあって互いを大切に思い合えたことが、一番うれしかった。」と報告した。

この仲間と出会えたこと、一緒に研修を作り上げられたこと、貴重な体験をすることができたこと、この研修のすべてが自分たちを大きくしてくれたと思う。研修で学んだことを自分たちの中にとどめておくだけでなく、周りの人に発信していこう、今後の人生の糧にしよう仲間と誓った。

これからもずっとこの研修は私たちの中で続いていこう。

